

読解力×記憶力で心豊かな人づくりへ

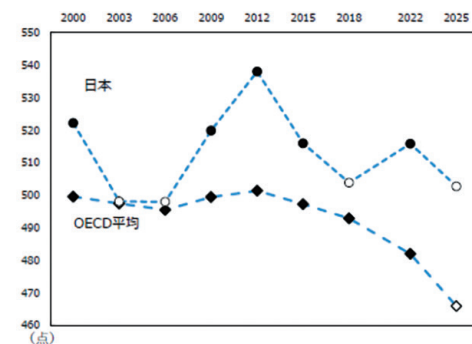
本市では、本年度から新聞記事を活用した「よむYOMUワークシート」とAI技術を採用した「Monoxer」という2つの教育プログラムを軸に、「心豊かな人づくり」に取り組んでいます。

■市学校教育課 TEL 0994-31-1137



世界的な読解力の低下と課題

9月8日、文部科学省から国際的な生徒の学力調査「PIISA 2025」の結果が発表されました。経済協力開発機構（OECD）が3年ごとに実施しているこの調査では、世界的に子どもたちの読解力の低下が明らかになりました。日本は高い水準を維持しつつも得点は減少傾向にあり、スマートフォンなどのデジタル機器の普及や活字離れによる深刻な影響が懸念されています。



▲世界と日本の読解力の平均得点の推移

また、令和7年11月に県教育委員会が発表した「令和7年度全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析」によれば、国語力において県内の小学生は全国平均をやや上回る結果となったものの、中学生は平均を下回りました。特に「知識・技能」は低下しており、言葉の知識を活用して思考や表現に生かす力の育成が課題に挙げられています。そのため文章を素早く正確に読み解き、論理的に表現する力の育成が急務となっています。

学校種別	地域	平均正答率	観点別知識・技能
小学校	鹿児島	67.0%	74.3%
	全国	66.8%	74.5%
中学校	鹿児島	53.0%	44.3%
	全国	54.3%	48.1%

▲令和7年度全国学力・学習状況調査(国語) 鹿児島県と全国の平均正答率の比較

本市ではこの課題に対し、これまで培ってきた教育を実践しながら、さらにICT機器を十分に活用した教育プログラムを開始。このプログラムでは、誰一人取り残されることなく基盤となる読む力（読解力）を底上げし、知識を含めた確かな学力が育まれることを目的としています。

挑戦し続けてきた 鹿屋市の教育

本市は以前から、電子黒板の導入を全国と比較しても早期に導入するなど、教育において積極的に新しい環境を取り入れてきました。そのため、国の「GIGAスクール構想」を基盤とした全小中学生へ「一人一台のタブレット端末」を配備する際にも、新しい環境に現場がいち早く順応することができ、ICT教育の充実に取り組むことができています。デジタル端末は日々の授業で活用され、子どもたちの情報活用能力は着実に向上しています。

その一方で、設備や環境を充実させた次のステップとして、い



▲広報かのや令和3年12月号特集「進化する次世代の教育」

にして真の学力へと結び付けるか「さらなる結果」が求められています。そこで本市では本年度から、最先端テクノロジーと活字文化の融合を図るために思考力を深く耕すための新聞記事教材「よむYOMUワークシート」と、AIの力で基礎知識を確実に定着させる記憶アプリ「Monoxer」を組み合わせた先進的な取り組みを実施しています。「思考力」と「記憶力」を車の両輪として機能させ、確かな学力の土台を築く教育の現場を紹介いたします。



▲鹿屋市教育委員会